



## News Release

2024年5月15日

報道関係者 各位

株式会社ニチレイフーズ

食品残渣をオンサイトでエネルギー化する  
Daigas エナジー「D-Bio メタン」を関西工場に新規導入  
動植物性残渣の約 20%減容・CO<sub>2</sub>排出量の年間約 40t 削減を目指します

株式会社ニチレイフーズ（代表取締役社長：竹永雅彦、以下「ニチレイフーズ」）は、大阪ガス株式会社（代表取締役社長：藤原正隆）の 100%子会社の Daigas エナジー株式会社（代表取締役社長：福谷博善、以下「Daigas エナジー」）の提供するオンサイト（自社工場敷地内）型バイオガス化システム「D-Bio メタン」を、ニチレイフーズ関西工場（以下「関西工場」）に導入いたします。食品残渣をオンサイトでエネルギーに変換するシステムの導入は、ニチレイフーズでは国内初となります。両社では引き続き、2025年7月のエネルギーサービス開始を目指し、共同して取り組んでまいります。

### ■本取り組みの背景

ニチレイグループでは、長期経営目標「2030年の姿」実現に向けた5つのグループ重要事項（マテリアリティ）の中に、「持続可能な食の調達と循環型社会の実現」および「気候変動への取り組み」を掲げています。また、重要事項それぞれの「2030年のありたい姿」に、「サーキュラーエコノミーの実現」および「長期CO<sub>2</sub>排出量目標※」を掲げています。

このたび、生産にともなって発生する食品残渣を有効利用し、工場内でカーボンニュートラルな蒸気を循環利用することで低炭素化を実現すべく、Daigas エナジーの提供する「D-Bio メタン」を関西工場へ導入することに決定いたしました。

※2030年に国内・Scope1・2におけるCO<sub>2</sub>排出量を50%削減（2015年比）

■本取り組みによる効果

関西工場では「D-Bio メタン」により、食品残渣をオンサイトで発酵させ、メタンガスを製造します。そのメタンガスを燃料としてバイオガスボイラを運転し、カーボンニュートラルな蒸気を作り出し、自社工場敷地内で循環させ、製造工程で再利用します。

食品残渣をメタン燃料化することで、関西工場で発生する動植物性残渣を 20%程度減容することが可能となります。さらにカーボンニュートラルな蒸気の循環利用により、年間約 40 トンの CO<sub>2</sub>削減効果を見込んでいます。

また、食品残渣の発酵を促進する際に使用する水は、関西工場の排水放流水を使用します。水資源を循環させ有効利用する事例は、「D-Bio メタン」の導入事例において初となります。

ニチレイフーズと Daigas グループは、今後も「循環型社会の実現」ならびに「気候変動への取り組み」に共同して努めてまいります。

【関西工場に導入するオンサイト型バイオガス化システム概要】

